

令和2年度第2回京都市百井青少年村のあり方検討会議

日 時 令和2年7月31日（金）10:00～11:45

場 所 京都市男女共同参画センター ウィングス京都 2階セミナー室A

利用者のターゲット

（土井会長）

- ・ 野外活動の面で見ると近年はトレッキングをする高齢者も増えているので、そのような方を対象に含めてはどうか。
- ・ 百井地域の特性を考えれば万人受けするとは言えないが、このような不便な環境を好む人があるのも確かである。プロモーションの仕方によっては面白いものになるのではないかな。

（竹内委員）

- ・ 青少年をターゲットに含めるのは賛同するが、青少年に特化させた施設で運営を続けるのは厳しいと思う。交流人口を増やすという意味でもファミリー層など、大人まで広げていくべき。

利用目的

（竹内委員）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動拠点の考え方が大きく変わっている。街中だけでは包摂できない部分を山間地域で受け入れていくという考え方を打ち出すべき。

施設のあり方

（土井会長）

- ・ 活動のベースとなるハード面について、宿泊棟やトイレ等の施設の撤去及び整備は誰が行うのか整理する必要がある。また、安全な道や駐車場所の確保も必要である。人を呼び込むなら、快適性をある程度確保すべきである。
- ・ テント以外の泊まり方については検討が必要である。
- ・ 交流センターは比較的新しいため活用できると思うが、一定のリニューアルや使い方の見直しが必要ではないかな。

（浅川委員）

- ・ 現在開催されている取組等について周知が不足しているのではないかな。市民しんぶんやG o G o 土曜塾等の媒体をしっかりと活用すべき。
- ・ 小学校低学年までの子どもが利用する場合に備え、簡易なもので良いので宿泊施設は設置すべきではないかな。

（畦崎委員）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で体験活動が制限されている中で、体験活動の重要性を改めて感じた。百井青少年村のような体験活動ができる施設は大切である。

- ・ 体験活動は百井青少年村、宿泊は別の施設という住み分けをしても良いのではないかな。
- (山本委員)
- ・ 施設の中に畑を作り、年間を通じた体験を実施しても良いと思う。
 - ・ 建築物を除却した後に一気に整備する必要はなく、利用者プログラムの一環として設備を増やしていても良いのではないかな。

地域コミュニティ活性化への貢献

- (山本委員)
- ・ 炭焼体験等は場合によっては、後継者の育成へ繋げることもできると思う。
 - ・ 施設のあり方を検討することで、関心を持つ人も増えた。もっと施設の情報が入ってきた方が良いと思う。
 - ・ 施設で地域の人を雇用してもらえれば、Ｕターンが見込めるのではないかな。
- (土井会長)
- ・ 施設の情報を地域へ発信することで良い関係を築くことができるのではないかな。
 - ・ 地域には様々なノウハウを持った方がいるので、施設内で活かせるような仕組みを作っていく必要がある。

施設の運営・資金の確保

- (土井会長)
- ・ 民間事業者による運営を行うならば、事業者に興味を持ってもらわないといけない。
 - ・ 指定管理者制度以外で民間活力を導入するのであれば、アウトドアスポーツ関係者や企業へヒアリングを行ってはどうか。
 - ・ 市ないし民間事業者が資金を投じないと次の展開が見込めないため、見通しを立てておく必要がある。
 - ・ 理想像と現状の間を誰がどのように埋めるのか、資金はどのような手段を使って確保するのかを検討する必要があるが、将来の姿を固めることでアプローチの方法が明確になるのではないかな。
- (竹内委員)
- ・ 今までの検討で良いところに着目することは一定できたと思うが、実現できることとそうでないことを仕分けていく必要がある。現時点では運営方法や財源確保など、見えていない部分も多い。理想をできるだけ実現に近づけるために運営や資金の確保の手法も考えていく必要がある。市の指定管理者制度や財政面から見て課題になると感じていることがあれば教えてほしい。

→ (事務局)

指定管理者制度は、利用料金の種類や金額を条例に規定する必要があるなど、条例で規定された範囲内でしか業務をすることができないため、状況に応じた柔軟や運営や自由な発想を取り入れることに限界がある。例えば、今

までの御意見で出された地元からの野菜や食事，お土産の提供なども，指定管理者制度の範疇での実現は困難ではないかと考えている。

また，本市の極めて厳しい財政状況を踏まえると新しい箱物を作ることはおろか，既存施設の維持管理についてもこれまでのような予算を投入することは困難であり，長期的な施設の存続に向けては民間活力の更なる導入が不可欠である。

本市のほかの施設においても，施設の再整備を行うような場合には，民間活力の導入を行うことが最近の潮流となっており，百井青少年村においても基本的にはこうした流れに沿って対応していかざるを得ない。

なお，スポンサーの獲得という御意見もいただいたが，コロナ禍で企業体力が影響を受ける中，単なる資金提供に応じてくれる企業はないように思う。民間の資本を引き出すのであれば，事業者がここで長期的に収入を得ることができ，投資効果をしっかりと回収できる仕組みが必要になると考えている。

（山本委員）

- ・ 地元雇用をしてもらえるような民間事業者に入ってほしい。

利便性

（浅川委員）

- ・ 飲酒については花背山の家もルールを定めて認めているため，百井青少年村についても対応ができるのではないかな。
- ・ 指定管理制度の都合で施設内での実施が難しいならば，地域において物販や食事を提供してはどうか。

その他

（山本委員）

- ・ 百井地域の強みとして自然環境が挙げられているが，居住者から見ると当たり前のことでも，他の地域から来た人が見れば珍しいことが多いようだ。

（竹内委員）

- ・ 百井地域のハザードマップを見ているとすべて土砂災害（特別）警戒区域となっている。いざという時にキャンプ場を含めた集落全体が孤立することもあると考えられるため，災害時の拠点となるような場所を集落内に整備する必要があるならば，市として一体的に検討すべきではないかな。